



# うた ひつじの詩だより

2008, 2, 1  
毎月発行 No.83  
この便りをご注文の品と  
いっしょにお届けします

日差しがすいぶん明るくなってきました。1年でいちばん寒い時期ですが、2月の季語は立春、春寒、紅梅など、春を想起させるものばかりです。

今月は、もう20年以上も続いている毎月第3日曜日のワークショップについて、佐々木奈々子が語ります。

いただいたこの機会に月に1回、横浜のわが家で行っているワークショップについて、改めて考えてみました。

はてさて、ルーツをたどれば、今していることの原点はこれかと思える古い記憶があります。10代だったと思います。どこか大きな図書館で見つけたヨーロッパのテキスタイルの手仕事の本にくぎづけになったことがあります。飽かずながめては、夢のような世界を発見した興奮にひたったことを覚えています。その後も後、ひょんなことから、スウェーデンに住む事になって、忘れていたあこがれの記憶がよみがえりました。あの夢の世界が現実となって、いま私は 手仕事の宝の山にいる！（日本の手仕事の素晴らしさに充分気がついていなかった若い日の私です）

あこがれという気持は 大きく人を動かすものですね。住んで10年以上の間、たくさんの特に羊毛の手仕事に夢中になりました。手仕事は生活のためですから、人々の習慣や伝統や気質にも興味津々でした。次第に、こんな喜びをひとりじめしないで、お伝えしたいなーと思いはじめました。大それたことを考えたのですが、日本に戻って、ウォルドルフ人形の普及と共に、今の第3日曜ワークショップを始めました。寺田さん他の講師の協力を得て、あの気持ちを大切に たくさんの手仕事に 一発見と子どもたちに手渡す喜びーを感じて欲しいという願いを込めて。そのほかに、「ペレのこひつじ」という子どもさん対象のワークショップもしています。お話しや手仕事は、ほんとうは一母の手から子へへ伝えられるべきことかも知れません。けれど私にとっては、子どもたちに直接触れ合える貴重な時間となっています。どちらも、何かを手渡していきたいという気持、迷惑かもしれないと思いつつ、子どもたちへのラブレターをつもりで、楽しませてもらっています。



実際のワークショップでは、ウォルドルフ人形を主に作っています。その他の羊毛の手仕事ももちろんします。教え、教わる関係でなく、手本どおりに作る事が目的でもないことを、わかっていたのがちょっとむずかしく、当面の課題です。手取り、足取りではなく、自分で作ったという達成感を感じていただけるような方法をいつも探しています。結果よりは過程が大事とも思います。楽しい時間を共有するなかで 手仕事の意欲がわく空気を 来られる皆さんひとりひとりが生み出してくれているのだなーとワークショップのたびに感じています。

スウェーデンひつじの詩舎主宰 佐々木奈々子

☆ 上記の日曜日ワークショップは、参加者を随時募集しております。詳しくは、スウェーデンひつじの詩舎まで、お問い合わせください。

## 「心を育む人形たち」展のお知らせ

2月26日(火)～3月2日(日) ウーフ 香川県丸亀市土器町西 5-88

TEL0877-24-4667 担当：山地洋子



## New! キット発売開始のお知らせ

「心を育む人形たち」に掲載の作品の材料キットに、新たに3つが加わります。



フェルトの人形（身長約 20cm大の男の子または女の子どちらか 1体分 3,000円）

⇒ 写真：紙面中央と左下

ひつじの親子（親の高さ約 12cm 1,000円）

四季の妖精（約 12cm春・夏の2体分セット 3,000円）

⇒ 写真：紙面右上(春)と左上(夏)

★2月4日よりご注文をお受けし、2月12日から順次発送させていただきます。



## ぱたぼん通信

### “ぞうきん”にも“ぬくもり”が…?

新学期の始まる前にしなくてはいけない一つが“ぞうきん”の用意です。いつも古くなったタオルを下ろして2枚作ります。以前娘が友達に、「いつもぞうきんどこで買ってるの?」と訊かれ、驚いていたことがあります。私も10枚組みで売っているぞうきんを「安い!」と思ってしまうのですが、私の昔の思い出が買わせません。

私が小学生の頃、やはり母の手縫いぞうきんを学校で使っていました。母が縫ってくれたぞうきんが、掃除するときにはいつもあたたかかったのです。「ぞうきんが?」という感じですが、手縫いで縫い目やそのやわらかさが好きで、母の手のぬくもりを感じていたのです。そんな話を娘にしながら縫っていると、「私も思うよ。だから掃除のとき、はりきっちゃうんだ」と小4の娘からのうれしい言葉。調子に乗って、隅のほうに名前と帯の刺繍をしてしまいました。横にいた中学生になる娘が、「私は、ランドセルに付けてくれたクルミの赤ちゃんがそんな感じだったかな」と一言。うれしさいっぱい、不安もいっぱいだった、小学校1年生になるとき、大きなウォルドルフ人形というわけにはいかないので、小さなクルミの赤ちゃんをランドセルに付けたりしたものでした。（結局、6年間付いていました）

まだ小さいながら外では色々な経験をして、楽しいこと、時には嫌なこと、思い通りにならなくて我慢しなければいけないことなどたくさんある中で、離れていてもぬくもりを感じて心が温かくなることができれば、子どもは何があっても乗り越えられる強い心を持てるのではないかと私の経験の中で思っています。

そんなお母さんが子どもに伝える愛情表現の一つとして、ウォルドルフ人形を心を込めて作って手渡してあげることは、はるかにたくさんの愛が伝わるものと信じています。

宮崎 智子（神奈川県相模原市在住）



星の子を小さく作ったものを  
手提げ袋につけたり・・・

編集担当：佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ

<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

♡スウェーデンひつじの詩舎♡  
スペース ペレのあたらしいふく  
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2  
TEL.FAX 045-881-6900,6665  
佐々木のアドリエ TEL.FAX 045-811-6708  
相談窓口(火・金) 担当：寺田裕子)045-881-7035